

来賓挨拶

名古屋大学理事（社会連携・産学官連携、国際交流担当）・副総長
宮田隆司

（宮田） 皆さん、こんにちは。名古屋大学の国際交流と社会連携・産学連携を担当しております副総長の宮田です。名古屋大学農学国際教育協力研究センター第9回オープンフォーラムの開催に当たりまして、名古屋大学として一言ごあいさつ申し上げます。

本日はお忙しい中、北海道、鹿児島をはじめ、全国各地から遠路お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。さて、名古屋大学は2005年12月に「名古屋大学国際化推進プラン 国際連携によるワールドクラスの研究重点大学を目指して」ということで、国際化を推進してまいりました。その中の重点目標の一つに、国際開発協力の推進があります。この国際開発協力推進体制を学内において整備し、国際援助機関からのプロジェクト受注および資金導入を図るとともに、その支援体制の充実を図ること。それから、国際開発協力を促進・支援する全学的体制を整備すること。それに加えて、本来のミッションである途上国への教育開発、人材開発援助を行うこと等を目標としてまいりました。

農国センターは、本学の中で、法政国際教育協力研究センターと並んで、農業国際教育協力のナショナルセンターたるべく、1999年4月に文部科学省のご指導の下に名古屋大学に設立されたセンターです。設立以来、その設置目的の達成を目指して、さまざまな活動を行っていただいています。例えば、カンボジア王立農業大学の近代化に向けた大学院のカリキュラム開発や、アジア高等教育機関との連携によるeラーニングを活用した大学院農学教育開発や、全国の農学系大学、公立農業研究機関等の国際協力人材のデータベースの作成、またJICAの国内研修の実施への協力等々、幅広く活動を進めてきていただいています。最近では、文部科学省の国際協力イニシアティブ事業への参画や、農林水産省、アフリカ農業研究者能力構築事業の受託など、その活動の幅をアジア・アフリカへ広く広げつつあります。今年度は、いわゆる留学生30万人計画の先取りともなる学位取得を目的とした国際協力機構の長期研修をも受託しています。

本日と明日、行われるこの第9回オープンフォーラムでは、「大学等有する知的資源の組織的活用による国際教育・研究協力の推進と強化－農学知的支援ネットワークの形成に向けて－」が議論されるわけですが、これまでの国際協力分野におけるどちらかといえば、先生方個人の努力と情熱に依存するやり方から、大学等有する知的資源を組織的、継続的に十分有効に活用できるような全国ネットワークを形成して、大学等有する専門的かつ網羅的な知と経験を生かす国際教育協力研究体制を構築するという趣旨は、昨今の科学技術ODAの推進というわが国の政策とも合致するものではないかと思えます。名古屋大学農学国際教育協力研究センターが、その事務局の重責を担い、役割を果たしていくことは、名古屋大学としても十分な理解と支援を惜しまないつもりです。

本フォーラムにおきまして、参加者の皆さまが十分に議論を尽くして、実利性や実効性のある農学知的支援ネットワークが構築され、途上国の現地の方々に喜んでいただけるような国際協力ができるようになることを心から期待しております。本日はご参加、ありがとうございました。